

国際共同研究交通費補助 研究成果報告書

(適宜行追加可)

所属・職・氏名	国際学部・教授・吉村祥子
共同研究者 所属・職・氏名	フィレンツェ大学・政治学部・特任教授／弁護士・ヴァディ・ヴァレンティナ
研究課題	国際法における普遍性と地域性：国際経済及び文化遺産の保護の分野における検討
共同研究 実施期間	派遣期間： 年 月 日 ～ 年 月 日 招聘期間： 2024年 2月 8日 ～ 2024年 2月 14日
共同研究 実施場所	関西学院大学・上ヶ原キャンパス、その他（添付のスケジュールを参照ください）
1. 研究の成果（本共同研究によって得られた新たな知見、成果等を簡潔に記述してください。該当しない場合は「該当なし」と記載してください。）	
（１）学術的価値（本研究により得られた新たな知見や概念の展開等、学術的成果）	
国際法は、もともと欧州地域における研究やその成果に基づいて発展した部分が大きく、世界的に適用される国際法であっても、欧州地域の考え方や価値観に根ざしているのではないかと指摘されている。一方、今日では、日本を含むアジア地域など、欧州以外の地域に所属する研究者と交流したり、文化的な背景を理解し取り入れた上で、関連する研究をより普遍的にしようとする試みが見られる。本研究はその先駆的な存在である。	
今回、ヴァレンティナ・ヴァディ教授を招聘し、同教授がこれまで行ってきた欧州の視点からの国際法研究と、これまで主に国際法を「輸入」し理解してきた日本との考え方を融合させることにより、これまでにない新たな知見や成果を得られると確信している。具体的には、今後数年に渡り、国際経済法や文化遺産の保護に関する国際法の共同研究プロジェクトを行い、成果を出すこととしている。	
（２）相手国との交流（海外の研究者と学術交流することによって得られた効果）	
相手国との交流により、日本で一般的に歴史として教えられたり、行事として行われていることが、非常にユニークな文化的特性を有していることが理解できた。同時に、国際的な基準の創出に日本も関わる必要があること、また、国際的な学術交流の機会を得て様々な世界に向けて発信していくことの必要性が理解できた。	
（３）社会貢献（社会の基盤となる文化の継承と発展、社会生活の質の改善、現代的諸問題の克服と解決に資する等の社会的貢献）	
文化遺産の保護の分野に関する国際法の共同研究を進めるにあたり、今回、日本で最初にユネスコ世界文化遺産に認定された姫路城を訪問した。また、日本の歴史的建造物を支える技術であり、ユネスコの無形文化遺産に認定された宮大工の技術を主に展示する竹中大工道具館を訪問し、鉋削り等の体験も行った。さらに、日本の伝統的建造物を主に担当している宮内庁職員の方より、文化財の維持に関連する日本の政策や、観光資源として文化財を捉えることの是非についてお話を伺った。これらより、日本文化の歴史的背景と、ユネスコ等によって形成された文化に関する国際条約や基準との調整の必要性が明らかになった。主に木材を利用する日本の伝統的建造物は、気候による影響を受けやすく、補強や修復を前提とするのが特徴だが、この特性はオーセンティシティ（真実性）を重視する文化遺産の国際基準に合わない判断されてしまっていた。1994年に採択されたオーセンティシティに関する奈良ドキュメントは、その調整を行おうとする一つの試みである。さらに、国内では商業的な価値が低く見積もられがちであっても、海外から高く評価されることにより、その価値が再評価され、結果として伝統的な文化が維持されうることもわかった。	
また、ヴァディ教授は、補助申請者も参加する国際研究プロジェクトの一つである、国際経済法ハ	

